

高校2年生のLさんは、日ごろから教師への反抗、授業妨害などの問題行動を起こしていた。そんなある日、Lさんが学校内で喫煙をしているところが見付かった。担任はLさんを指導したあと、保護者に連絡して学校に呼び出した。

担任は、今までのLさんの問題行動について具体的に保護者に注意を促した。その後、管理職から今回の喫煙に関する処分を言いわたし、家庭でも厳重に注意するよう話をした。

これに対してLさんの保護者は、「たばこを吸った事に対しては、厳しく指導します。最近、家でも反抗的で困っていました。でも、今まで学校でそんなに問題があったなんて知りませんでした。何でもっと早く連絡をくれなかったのですか。授業妨害をするのはうちの子も悪いですけれど、学校にも何か原因があるんじゃないですか。」と学校への不信感をあらわにした。



子供の成長のためには、学校と保護者の協力が必要不可欠です。この協力体制を築くためには、学校は保護者に以下のような配慮をすることが大切です。

子供の問題行動に対する協力体制

- ① 今までの保護者の努力を否定せず、学校や教師も共に悩んでいるという気持ちを伝え、問題に対する相互理解をする。
- ② 問題に対してどのように取り組むかを、一方的に助言するのではなく共に考える。
- ③ 助言は具体的に、保護者のできるところからする。
- ④ 連絡を密にとり、保護者の取り組みについて継続的に援助する。

保護者との間に共通理解をもつ

保護者との協力体制を築くためには、保護者との間に共通理解を生むような努力をしていかなければなりません。

① 子供の様子を発信する

学級便り、連絡帳、手紙、電話、保護者会、授業参観、家庭訪問、個別面談などを活用し、学級の様子や子供の様子を家庭に知らせる場面を増やすことが大切です。

② 家庭からの情報を受けとめる場面を工夫する

学校からの一方通行だけでは、相互の共通理解を生むために十分ではありません。連絡帳、手紙、電話、家庭訪問、個別面談などを利用し、子供自身の家庭における状況などを、家庭から情報提供する場面を増やすことも大切です。